

【第2回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

平成27年8月4日

【日時】 平成27年7月7日（火）15:00～17:00

【場所】 石狩市役所3階 庁議室

【出席者】 14名（15名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	酒井 志津子	○	委員	武部 正芳	○
副会長	竹口 尊	○	委員	坂下 和広	○	委員	徳光 康宏	×
委員	木村 秀裕	○	委員	佐藤 勝彦	○	委員	林 美香子	○
委員	河野 明美	○	委員	白井 かの子	○	委員	原 俊彦	○
委員	小林 卓也	○	委員	高梨 朝靖	○	委員	松崎 英樹	○

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域政策部：田辺戦略策定支援担当部長、高田地域政策課主査

□事務局 石狩市企画経済部：加藤企画経済部長、佐々木企画課プロジェクト担当課長、
池内企画担当主査、青木企画担当主任

【傍聴者】 2名

- 【次第】 1. 開会
2. 総合戦略について
・具体的な施策等について
3. 閉会

==== 会議内容の記録 =====

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

1. 開会
2. 総合戦略について

- 全体像について事務局より説明【資料1】
- 各戦略目標の「具体的な施策（案）」の概要について事務局より説明【資料2】

意見交換

■委員提出の資料について

○資料に基づき、白井委員から説明。【白井委員提出資料】

○今回の提案は良いと思う。問題は人がいないということではないか。新しい総合計画（案）の中で、新・現役世代が活躍すると打ち出しているため、旧石狩地区の新・現役世代を動員し、浜益区の色々な案件を担ってもらい仕組みをつくれば早く効果が現れると思う。

○浜益区でICTを活用する。小規模な地域は効果が高いため、例えば全世帯にiPadを配布し、本町地区の方と交流や情報交換することで問題解消に繋がると思う。モデル地区として実施するのが良いと思う。

○戦略目標1に該当するかもしれないが、課題解決にはボランティアの活用があると思う。旧石狩地区の新・現役世代の方にボランティアとなってもらい仕組みをつくる。そのためには、ボランティアが楽しいと思わせる仕掛け、インセンティブが必要であり、そうすることで、旧石狩地区の新・現役世代と浜益の方々との交流が実現するのではないかとと思う。

■戦略目標1 「『新・現役世代』が活躍する」について

- 「新・現役世代」という名称については、イメージがうまく伝わるような工夫が必要であると感じる。
考え方は理解するが、「・」を入れないほうが見やすい。
- 検討させていただく。
- 女性の力を活かす視点での事業が少ないように感じる。石狩が子育てを目玉にして行っていくのであれば、子育て経験者の女性の力を、保育助手のような役割で、保育園などにボランティアとして導入したら良い。
- どの項目にも当てはまるのだが、事業のPRが十分に出来ていないことが問題である。

(1) 高齢世代の仲間づくり・交流機会の提供

- 現在実施している「ふれあいサロン事業」は、孤立を防ぐ等、支援される立場の高齢者を対象としているイメージが浸透している。新・現役世代が現役世代の方などとの情報交換の場とするならば、「ふれあいサロン」ではなく、別な角度で機関を設けたほうが良いと思う。
- 皆でまちづくりをするための「まちづくりサロン」など、表現方法を変えたほうが良い。
- 所管課と協議し、表現方法を検討したい。
- ボランティアについてだが、60代前半の方はアルバイトをしており、継続する事業や無償で働くとなるとボランティアは持続しないということが体験の中でわかった。

(4) 多世代交流による地域の活性化

- 具体的な例としてカラーリングがあるが、市内で実施しているところでは参加者は高齢者のみであり、子どもは参加していないため、多世代交流としてはもの足りないのではないかな。
- 高齢者が孫世代に教えるなど、食育を多世代交流に入れることも可能ではないかな。

(5) 健康寿命の延伸に向けたサポートの充実

- もっと食育をテーマにしたものを取り上げてほしい。数値目標にもしやすいと思う。市民カレッジや町内会カレッジのテーマとして、野菜の摂取量増加を目的とした食育を取り上げるなどすると、さらに可能性が広がると思う。食育的な活動をしている方も石狩にはいるので、そちらとも活動が繋がってくるのではないかな。
- 料理教室で地元の食材を使うことで、食育にも繋がる。
- 健康づくりと言えば、今は食育だと思う。
- 健康寿命の延伸に関しては、高齢者だけではなく、全世代に関係してくる。

■戦略目標2 「『子育て力』をさらに発揮する」について

(1) 若い世代の出会いを地域の活力に結び付けていく取組みの推進

- これは、一次産業に限った話ではないと思う。実際、女性の方に農業体験等をしてもらうなどの活動はしているが、出会いの場を提供しても男性の参加者が少ないのが課題である。
- あくまでも参考値だが、国のアンケートで、4割くらいが結婚に魅力を感じないと回答している。石狩の若い世代がどう考えているかを、今調査したいと思っている。
- 昔は良い意味で「おせっかい焼き」がいた。「おせっかい」という言葉をもっと良いイメージに作り上げ、

まちづくりの大きな視点の中で「おせっかいを焼こうキャンペーン」を実施すべきだと思う。健康や防犯など、石狩市民全体にちょっとした声掛け、ちょっとしたおせっかいができる、そういった支えあいで幸せになる地域をつくる。

(2) 地域が連携した子育て支援・地域教育の推進

- 引退した小学校の先生がやるような、進学塾のようなものがあるのも良いのではないかな。
- 子育て初心者向けのママ友サロンがあると良い。幼稚園や保育園に入る前が孤立しやすい。赤ちゃんから幼稚園や保育園に入る前の世代をケアしていけば、石狩は子育てしやすいところだとイメージアップする。

(3) 市内就業者の視点に立った保育環境の整備

- 保育ママなど、保育補助のようなものが無いが、あっても良いのではないかな。
- 新たな施設を整備するなら、その施設を核として、その外側に付带的に地域の人たちがお互いの子育てを助けられるようなものを作ると良いと思う。個々の施設を孤立させずに上手く連携させたほうが良い。
- 学童保育に関しては、待機児童がいない現状であっても、今後人口を増やしていくということを考えるならば、施策に入れておくべきではないかな。

■戦略目標3 「『地域資源』からモノやしごとを創る」について

(2) 「石狩ブランド」の推進

- マスコミを上手に使った観光PRを行うと良い。
- マスコミの活用は昔からやっているが、今は定着化しており、なかなか取材はされなかったりする。
- 「ヘルシーDo（北海道食品機能性表示制度）」を活用してはどうかと思う。石狩ブランドはただ美味しいだけでは続かないと思う。健康に良いとか、安心安全であるとか、科学的な裏づけをもってPRしていけば、ブランド化につながるのではないかな。
- 石狩には花の生産者がとても多いことから、地元の花を使った全国展開ができないかと考え、石狩の花である“ハマナス”を使って何か作ろうと動き出している。石狩を盛り立てようという想いをもった人が少しずつ増えてきていると感じる。
- 石狩の花ブランドとして打ち出したほうが良い。まちづくりの関係でも花はまちのイメージがわかりやすい。
- ブランドに文化性を出すと、鮭やニシンでも高級食材のイメージに変えられるのではないかな。
- 石狩は一次産品が主体であり、色々なものを作っているが、これといった目玉がない。全国的にブランドになるものを行政と農協が一体になってブランド化していくと、収入増にもつながる。

■戦略目標4 「『いろんな顔』をつくる」について

(1) 観光資源を活かした交流人口の誘導

- 海水浴場は、天候に左右されることもあるが、最近は海水浴離れの傾向にある。キャンプやバーベキューといえば「海」というイメージが変わってきた。あそび一ちでは、昨年から手ぶらでバーベキューという、道具の貸し出しから片づけまで行うサービスを提供している。今年からはWi-Fi環境も整備し、

海水浴を楽しむという部分で少しずつイメージを変えていければ良いと思う。一時期 40 万人いた入込数も今は半分の 20 万人になっている。

- 海岸デッキのような施設を作り、それを新しい風景にするなど、思い切ったことをやってみるのも一つの手だと思う。北海道は夏が短いので、冬の海をどうしたら観光資源にできるのかも考えなくてはならない。冬もできることを考え、自然を活かした施設があると、他の海水浴場との差別化になるのではないかな。
- 海外からも人が来るので、数値目標に海外からの人数があっても良いのではないかな。海水浴場だけではなく、観光資源を活かした交流人口の誘導を行っていくと良い。
- 地引網の体験もあるので良いと思う。道南の乙部町では、実際にホタテやツブを海に撒いて、それを獲る体験があり、そのような楽しみなイベントを土日限定で開催すると親子は足を運ぶと思う。
- サンドパークの期間中、ホタテ釣りのイベントを行い、石狩産ホタテの PR もしていた。イベントを土日限定で開催すると、親子は足を運ぶと思う。今、海水浴場は泳ぐ以外にもうひとつ、プラスワンの魅力が求められていると思う。

(2) 中山間・過疎地域における多機能・複合型交流拠点の形成

- 道外の道の駅では、とれたて野菜を都会に直接送っている。駅長や行政、地域の農家が協力し、戦略的に取組んでいる。道の駅が観光客を集める場としてだけでなく、そこを中心に地域の小さな経済が回る仕組みを作っている。厚田にできる道の駅もそういう位置付けで進めて欲しいと思う。
- 今は空前のガーデニングブームである。厚田にできる道の駅を拠点に、周辺の景観を活かし、自然をキャンパスにしたガーデンを作ったらどうか。海風や潮の影響はあるが、地形をうまく利用して考えれば可能だと思う。
- 道の駅の課題としては、地形が問題であり、大きな駐車場がとれないことや、年間収益の予測が大変難しいことであり、冬の間の集客については、旅行会社とも一緒に検討している。また、ブランド化をどうするか。厚田ならではのレストランを経営するために、多品種少量の野菜を作ることを農家の方々と一緒に検討したがアイディアはあるのだが、実現するには、実行可能な人を見つけ組織化し、経営していくことを想定すると、具体化が難しいと感じている。

■戦略目標 5 「誇りとなる人や文化を育てる」について

(2) ゴールデンエイジの重点支援によるアスリートの育成

- 元プロ野球選手や元トップアスリートなど、各スポーツの人達を活用すればまた新たな展開が見られるのではないかな。以前、日本ハムファイターズの野球少年指導教室に、市内の小学校から子どもたちが参加したのだが、元プロ選手ということで、子どもたちの目の輝きが全然違った。
- 石狩には日本ハムファイターズの後援会がない。子ども達はプロ野球選手を観たいと思うため、是非市でもバックアップしてほしい。

(5) 鮭をキーワードとした歴史文化の活性化

- 非常に期待しているが、数値目標がさけまつりの入込数のみではとても寂しいのではないかな。例えば鮭の文化発信事業を市民カレッジに入れる、鮭の寒塩引きを活用する、鮭ソムリエや鮭検定を作る、鮭にまつわる国際交流、鮭サミットなど、もう少し色々なアイディアを入れて欲しい。
- さけまつりは毎年マンネリ化しているため、市民にアイディアを募集するなど、工夫や見直しをするべ

きではないか。歴史や知名度があるイベントなので、観光協会だけでなく、市民を巻き込んで企画するような仕組みづくりをした方が良いと思う。

■戦略目標6 「時代にあった地域として持続する」について

(1) ICTを有効活用する新たな行政サービスの構築

- 交通事情を考えると、ICTにはかなり投資しても元がとれると思う。冬季は特に市民が集まるのは難しいので、テレビ電話などを使い、街の人達が日常的にコミュニケーションをとれるようにした方が良い。
- 担当課から提案があったのが、災害情報の共有化の様なもので、Web GISを活用し、行政だけでなく一般の方にも提供できるコンテンツの検討というのがある。
- それに限定をせず、もっと使い勝手を良くする方法はあると思う。浜益や厚田では防災無線が各戸に入っており、それがリニューアルの時期を迎えている。相当なお金をかけて更新するのならば、ICTを活用の方がこれからの時代にも適している。防災無線は相当なお金をかけるのに、防災以外には使えない。防災情報も含めて、ICTをどのようにこの地域で使い、散在する各戸にその情報をきちんと届けるかを検討する時期だと思う。

(5) 近隣自治体との連携強化の推進

- 札幌市も道内連携を深めようとしているので、是非札幌市とも連携して良い施策を検討してほしい。

(6) 遊休公共財産の有効活用の検討

- 特に若い人達のアイディアを吸い上げるような仕組みで検討してほしいと思う。全国の活用の例では、若い人の意見から美術館をボルダリング（岩登り）の施設にしたことで、若い人たちが地元で遊ぶ、人が集まる好評の場所になった。
- 地域の人が資金を提供してお寺の境内を使い、スラックライン（綱渡り）を子どもが無料でできる仕組みをつくったことで、綱渡りの世界大会に子ども達が出場するようになった。メジャーなスポーツで地域おこしという方法もあるが、日本代表になれそうなスポーツを探すなど、そういうことで石狩の子どもたちが頑張れるようにしてはどうか。各地域色々な知恵を絞ってまちづくりをしているので、是非色々なアイディアを織り込んで欲しい。
- 基本的方向に、公共施設の総合管理計画とあるが、古い施設を取り壊す際に、財政面や安全面の課題もあるだろうが、上手な活用方法を若い人達の意見を吸い上げながら検討したら良いと思う。
- 若い人は、自分の意見はなかなか通りにくいと感じている部分もあるので、例えば空き家を利用して若者の意見を聞き入れる場所をつくり、それが上手くまちづくりに反映できれば良いと思う。
- NPO 法人など、身軽に動ける組織が必要になってくるのではないかな。

3. 閉会

平成 27 年 8 月 4 日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治